

JAMの主張

「天の時・地の利・人の和」 ～私たちの代表「村田きょうこ」を国会に送ろう～

【機関紙JAM・ 2022年6月25日発行 第281号】

今から30年くらい前、私がまだこの世界に入って間もない頃、当時組織内議員だった大先輩から教えられたことがある。それは、「天の時・地の利・人の和」。先輩曰く、選挙を戦っていくうえで最も大切なことだという。これ即ち、「天（天候）の与える好機も土地の有利な条件には及ばない、土地の有利な条件も民心の和合には及ばない」という意味で、中国・戦国時代の思想家である孟子が残した言葉だ。

私は子供の頃からちょっとした歴史オタクでもあるが、日本史上にもこれに当てはまる事例がある。最も有名なのは、「桶狭間の戦い」（1560年）だ。駿河の今川義元が2万を超える軍勢を率いて、織田信長の領地である尾張に侵攻した際、本陣を置いたのが桶狭間である。そこへ信長は僅か2千の兵で奇襲をかけた。これにより信長は義元を打ち取り、今川軍を撤退させ、天下取りの足掛かりとしたのだ。この時、「天の時」「地の利」が織田方へ有利に働いたことは言うまでもない。しかし、それ以上に敵の十分の一の兵力で無謀とも思える戦いに勝てたのは、「天の時」「地の利」という要素に加えて、最も大切な「人の和」という織田方の強固な結束があったからに他ならない。

また以前、NHK大河ドラマとして放送された「天地人」（2009年）はこの頭文字をとったものだ。知勇兼備の名将と言われた主人公の直江兼続が、この言葉を座右の銘としていたことも記しておきたい。

さて、この機関紙が組合員へ届くのは、選挙戦も中盤戦に差しかかる頃であろう。翻って言えば、今回の選挙制度である「比例代表選挙」は、「天の時」を示す自然条件、「地の利」を示す地理的条件は、全ての候補者が同じだといえる。であるならば「人の和」の結束力の固さが選挙戦の行方を握っている。このことからJAM本部、17地方JAM、全国105地協、大手労組会議、業種別部会、With、青年活動全国連絡会議、シニアクラブ、議員団会議、等々が、それぞれの持ち場で「村田きょうこ」を「是か非でも国会へ送る」という目標を持ち、「人心の一致と結束」（人の和）を図ることこそが、私たちの最後の取り組みなのである。

書記長 中井寛哉